



Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：佐藤 章夫 幹事：遠藤 正明

地区目標 「4つのテスト」を実践し ロータリーの価値をたかめよう。

クラブテーマ Let's Make The Best Better 前へ!

- ◆点鐘：佐藤 章夫 会長
- ◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
- ◆司会：及川 善大 副 S.A.A.
- ◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2892回例会

令和2年11月9日(月)

会長あいさつ

佐藤 章夫 会長



皆さんは安達峰一郎という人をご存知でしょうか。明治2年に今の山辺町に生まれた方でございます。国際司法裁判所の所長を務めました。

安達峰一郎については、山辺町に生家を復元してあるだけで、安達を語る資料はあまりにも少ないと思いましたが、しかし安達の業績たるや赫奕として輝いております。外務省に入って、ポーツマス条約の交渉では、小村壽太郎全権大使を支える立場でした。流暢なフランス語で小村全権を支えました。

国際司法裁判所では、他国からも信頼され、判事として就任間もなく所長に推されます。7年の間その職にあつて、第一次世界大戦前後の欧州列強の複雑かつ熾烈な争いを、公平公正に裁いてきました。安達には深い学識と高い徳望があったからだと思います。

昭和9年に病に伏し、オランダ、ハーグで死去いたしました。オランダは最大限の経緯を国葬をもって示し、国王自ら参列しました。日本の天皇はわざわざ特使をオランダに派遣しました。こんな名誉を受けた日本人は他に誰もおりません。

安達峰一郎は旧高楯村、今の山辺町の農家の長男です。勉学の志が篤く、まだ年少の時に山形に出て、今の山形東高校の前身たる学校に入り、2年を修了して東京の法律学校に転じました。

安達峰一郎は子どもの頃から勉強熱心で学業極めて優秀でした。子どもの頃から大志を抱いており、世の中でそり立つような大きな存在にならんと考えていたようであり、総理大臣若槻禮次郎とは学生時代からの終生の親友で、「安達峰一郎生誕の地」と刻まれた大きな石碑の文字は若槻の揮毫したものです。

このような偉人傑物が山形にいたことを多くの県民に知らしめて、郷土の誇りとし、私たちはそれぞれの立場で安達峰一郎が希求した世界平和を実現する努力を尽くさなければなりません。これからの時代を担う青少年たちに安達の思いが継承されていくことを願って、全国の中学生、高校生による世界平和弁論大会が毎年開催されており、今年第10回記念大会が、昨日山形大学で行われました。山形西ロータリークラブでは、これに協賛金を差し上げたことを、事後になりますがご報告いたします。以上で挨拶いたします。

幹事報告

遠藤 正明 幹事

- 米山奨学生のチャン・ダンさんへ奨学金の授与になります。
- 本日の例会終了後、基金管理委員会を開催いたしますので、ご案内のある方はお残りいただければと思います。その後に理事会を開催させていただきます。
- 今月のロータリーレートは104円です。

次年度候補者について

佐藤会長より

山形西ロータリークラブ細則第2条第1節の中に「役員および理事の選挙に関する候補者の指名」というものがございまして、これは「年次総会の主に1カ月前の例会において」と書いてあります。この細則に則って正式に候補者のお名前を申し上げます。

次年度会長候補者は東海林健登さんでございます。次年度会長エレクト候補者は市村清勝さんでございます。それから副会長候補者、長澤裕二さんです。

申し上げました候補者の皆さん方は、あくまでも総会で決定するものであります。

東海林会長エレクトより

西ロータリークラブ細則の第2条第1節第2のほうには、総会で審議をいただく理事候補者を発表する、という話になっておりますので、発表させていただきたいと存じます。

次年度の理事候補者といたしましては、尾形亨さん、武田朋広さん、武田秀和さん、あと橋本徳光さんの以上4名を候補者として上程させていただきたいと存じます。あと幹事候補者といたしましては武田岳彦さん、ならびに会計といたしましては早川徹さんであります。あくまでも総会でもご承認いただければなりませんので、ひとつ来月の総会の折には、スムーズなご審議いただきますことをお願いして、報告に代えさせていただきます。

委員会報告

親睦・家族委員会

会員の方が9名、奥様が4名、11月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

ご挨拶



三澤 徳眞 氏

山形イブニングロータリー会長

皆さんこんにちは。山形イブニングロータリークラブ本年度会長を仰せ付かっております、三澤徳眞と申します。

本日は例会、貴重なお時間いただきまして誠にありがとうございます。また、イブニングロータリークラブ運営事業等に多大なるご理解ご尽力を賜り、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。

今日はIMの開催の報告と参加のお願いということで参りました。このコロナ禍の中での開催となりますが、感染予防、また人数の制限など設けまして、開催させていただこうと思っております。どうか参加をお願い申し上げまして私から一言ご挨拶とさせていただきます。



後藤 卓也 氏

山形イブニングロータリー実行委員長

実行委員長を務めさせていただきます、後藤でございます。よろしくお願いたします。昨年9月7日に当クラブの20周年ということで、西クラブさんからはたくさんの方に来ていただいて、盛況に終了させていただいたことをまずお礼申し上げます。

毎年IMは、会員の40%の出席をお願いして、参加された方がいかに喜んでいただけるかということを考えて運営するわけでございますけれども、今年はコロナのために、様子が多少変わっております。感染防止のために、例年の会場の半分しか使えないという状況になっております。そのようなわけで、参加出席者人数を制限させていただいての開催となります。ただ参加者が少なければ、財政的に開催が不可能であるということもございまして、本年のIMといたしまして、山形西ロータリークラブさんには、最大の参加者ということで20名の登録ということで、よろしくお願できればと思います。

それから大会のテーマは、「コロナに負けるな 早く日常を取り戻そう」というテーマで、大会式典、講演会、懇親会、全ての行事を行う予定であります。講演会は、『教場』で有名になりました作家の長岡弘樹先生をお迎えして、講演会ということで今計画しております。

大会のほうはよほど感染者が拡大して非常事態宣言が出るようなことがない限りは開催するということで今準備を進めております。今後いろんな形で、流動的な部分がございます。その場合には、その都度ご連絡をさせていただければと思います。

最後になります。IMの大会は、今月末に会長様、幹事様宛てに出させていただきます。今年中の期限ということで、出席者のお名前を頂戴してというようなことで予定しております。最後に、来年2021年1月23日、パレスグランドで開催させていただきます。よろしくお願いたします。

ゲスト卓話



「ロータリー財団について」

長谷川 憲治 氏

国際ロータリー第2800地区・山形ロータリー財団委員長

皆さまこんにちは。今年度、ロータリー財団の委員長を拝命して山形クラブの長谷川でございます。ロータリー財団に関してお話を申し上げ、ぜひご理解とご支援をいただきたいということで今日お邪魔をしました。

日本でも貧富の格差、拡大、それによって大変苦しんでいらっしゃる方が増えているのでありますが、世界はもっと悲惨です。そこにも書いてありますが、先月の10月7日、世界銀行が発表した統計によりますと、世界において、1日1.9ドルで暮らす極度の貧困、1日107円60銭、月にして5,929円という誠に少ない金額で暮らす人が7億人を超えるという見通しだそうです。

それからまた、昨年11月12日の山形新聞に出てたのですが、世界人口の約3割の22億人、これらの人々が安全に管理された飲み水を得られない。そして世界人口の6割近い42億人が衛生的なトイレを使えない。さらに、ご承知のとおりコロナウイルスが追い打ちをかけておまして、ますます悲惨な状況にある人は世界中に増え続けています。増加の一途です。

日本でも同様でありまして、実は私、「社会福祉法人 山形のいのちの電話」の理事長を拝命してまして、そこから定期的にレポートが来るのですが、最近「生活ができなくて困ってる、死ぬしかない」という、こういう相談が非常に増えているんだそうです。

もう1つご紹介したいのですが、子どもの支援をしているNPO法人なのですが、そこへうちの家内もいろいろお手伝いしてるんですけども、私も頼まれて一緒に米を運びに行ったのですが、そしたら、30代か40代ぐらいの女性の方がね、その係の方の手を握って、涙をポロポロ流しながら何回も何回も頭を下げてお礼を言ってらっしゃるんです。帰られてから「どうしたんですか?」と聞きましたら、その方、シングルマザーで、高校生を筆頭に3人の男の子がいるんですが、コロナで仕事がなくなって、まったく生活ができない。それで食事が、食べ盛りの子ども3人ですから、自分は食べる余裕がない。せいぜい1日に1回しか食べられない。それで市役所に相談したら、社会福祉協議会を紹介されて、そこへ行っても駄目で、社会福祉協議会からそのNPO法人を紹介されて行ったらいいのですが、そしたらそこではいろんな食べ物を差し上げた。それが嬉しくて、まさに涙を流しながら手を取って頭を何回も何回も下げてたというのがあったのですが、そういうふうになんか困ってらっしゃる方というのは非常に多いんですね。

そこで2番目のロータリー財団の使命でありまして、ロータリアンが恵まれない人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通して世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。これがロータリー財団の使命です。そしてそれを実現するために、財団は世界中の各地区、各クラブへ地区補助金、グローバル補助金等の提供をしまして、活動支援をしておりますし、さらにはポリオ撲滅、あるいはロータリー平和フェローシッププロジェクトに

よりも世界平和の推進等のバックボーンの役割を果たしています。

中でもポリオはぜひ認識していただきたいので改めて申し上げますが、ポリオ撲滅運動は画期的成果であります。

33年前にRIがポリオ撲滅運動に取り組みました。その時の患者数、世界125カ国で35万人いたんです。それが今日まで33年間で25億人を超える子どもたちにワクチンの接種等の活動をしてきました。ロータリアン自らが接種活動にも従事してきました。

その結果、一時は、アフガニスタン3名、パキスタン6名、合計2カ国9人まで減少した。ところが残念ながら、パキスタンもアフガニスタンも紛争が絶えません。今、危険で接種活動できないんです。しかし、それでも撲滅まであと1歩であることは間違いありませんし、最近RIは撲滅という言葉ではなく、根絶という言葉に変えています。なんとしてもポリオを根絶するんだというのがRIの決意であります。そしてその功績が認められて、ナイジェリアのポリオプラス委員長でありますツンジ・フンショさんという方が、『TIME』誌の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれています。

そして、もしポリオを根絶できたならば、ロータリーという全くの民間団体が125カ国35万人いた病気を根絶させた。これは画期的な人類史上に残る成果だと思います。それを私どもロータリアンの寄付によってなされているということになるわけですから、われわれが誇りにすべき成果だと思います。ぜひ今そういう立場であるということも、もう1歩です、ご理解いただいて財団へのご支援をお願いしたいというふうに思います。

そして地区補助金、グローバル補助金に関しましても、当2800地区で今年度、40の事業に対しまして620万円の地区補助金が承認されております。当西クラブさんからも、「人と猫が共生できる町プロジェクト」、この事業に24万円が承認されています。ぜひご活用いただければと思います。

また、グローバル補助金というのは非常に難しいと言われるんですが、これも地区内で1件、海外奨学生へのグローバル奨学金として30,000ドル、当時のレートで324万円、これが承認されております。さらに1件申請予定になっております。

そういう活動、あるいは補助金、それを実現させているのが皆さんからの財団への寄付金であります。

3番目に移りますが、そのロータリー財団が、一段と重要性を増しています。ぜひその意義の再認識とそして寄付の推進をお願いしたいのでありますが、先ほど冒頭申し上げましたように、コロナウイルスの影響もありまして、援助を必要とする人々はますます増加しております。その対応が人類の喫緊の課題です。ロータリー財団の重要性も一段と増すと思われますし、さらなる強化を求められているというふうに思います。

現在、世界的に財団への寄付目標、お1人150ドルです。しかし恐らく、来年以降、この増額を検討されているのではないかと思います。そのような情勢、そして財団の意義をご理解いただきまして、150ドルの寄付をお願いしておりますが、150ドルで収まらないで、もっとしていただきたいというのが地区の財団委員長としての私のお願いです。

それだけ困っている人、求めている人、世界中に数限りなくいらっしゃいます。そのことをお考えいただいて、寄付をしていただければというふうにお願いと期待をしたいと思っております。

もう1つ、ロータリーカードの推進というのも是非お願いしたいんです。これは、財団委員長、必ずお願いしなければならぬことになっています。ロータリーカードの加入率が当2800地区、非常に低いんです。1,545人会員がいらっしゃるんですが、そのうち、カードの持ち主68名です。私が

お願いしたいのは、クラブとしてのカードを是非、作って欲しいということなんです。

例えば、今日、グランドホテルで例会をしておられます。この支払いをロータリーカード、クラブで作ったカードで払っていただくと0.3%が財団の寄付になります。それが西クラブの実績になります。払うのであれば、そのカードを使って払っていただけるのであれば、実績になりますから。寄付になりますから。是非、それをご検討していただきたい。いろんな支払いを相当年間、支払ってらっしゃると思いますので、それをカードで使っていただければ、それも実績になるということもご理解いただいて、ご協力いただければと思います。

最後にエチュードなどを紹介します。1つ目は、私、4年前、国際協議会に行きまして。その2日目の夜に、歓迎の晩餐会がありました。私ども夫婦が座っているテーブル、10人ぐらいのテーブルだったのですが、ほとんど日本人なんですけども、2人だけ、東南アジア系と思われるご夫妻がいらっしゃったんです。同じテーブルですし、家内と一緒にいって挨拶をしてきました。私どもが日本人だと分かったらですね、その方、バングラデシュのガバナーエレクトだったんですが、突然、堰を切ったように話を始められました。

「バングラデシュはとっても貧しい国で、子どもたちのための学校はおろか、安全な飲み水さえままならない。そういう地域がたくさんあるんだ。そういう我が国のために、日本のロータリアンが大変なお手伝いをしてくれている。我々は助かっているんだ。そのことを直接、日本のロータリアンにお礼を言えて大変嬉しい」と、こんな話だったんです。

「えっ!そうですか。初めて聞きました」と家内が言いまして、そのバングラデシュのガバナーエレクトは、「どうかすべての日本人は、日本のロータリアンがこんな素晴らしいことをしていることを、是非、知って欲しい。日本のロータリアンは素晴らしい。ありがとう、ありがとう」と、涙を流さんばかりにお礼を言っていたいたんですよ。「ロータリーってやっぱりすごいことしてんだ」と、私も初めて認識した瞬間でもありましたし、その後、席へ戻りましたらですね、家内が私の顔を見て「あなた、ロータリーって素晴らしいことしてるのね」と、結婚以来、初めて尊敬の眼差しで見てもらえた瞬間でもあったんです。そのときは全然わかんなかったんですけど、今思えば、これはグローバル補助金を活用しての奉仕活動だったんです。それがこんなに感謝されるんだということも是非、皆さんにご理解いただいて、財団へのご寄付、その他をお願いしたいと思います。

2番目でありまして、今年の国際協議会があり、そのときにラッピッド・ランさん、この国際協議会のおときは、財団協議会エレクトだったわけですが、その財団委員長としてスピーチをしてらっしゃるんですが、これが非常に良いスピーチなので、ちょっと長くなりますが、是非、ご紹介したいです。この方、スリランカの方なんです。スリランカは地震で病院その他が崩壊し、それに対して、財団の支援で新しい病院ができたんです。そういうことをスピーチしていらっしゃる。ちょっと読み上げます。

数年前、ロータリー財団の支援のもと、津波により破壊された病院に代わる、近代的な産科病院をスリランカ南部に建設。完成したその病院を見に行ったとき、新生児集中治療棟の保育器にわずか900グラムの女の赤ちゃんがいました。手のひらに入ってしまうほどの小さな赤ちゃんでしたが、他のどの赤ちゃんよりも必死に呼吸し、懸命に闘っていました。私たちはこの小さな赤ちゃんを守るために、できることすべてを尽くしました。この子にチャンスを与え、財団の力によって生きてもらうために。そして、見事にその赤ちゃんは生き延び、成長しました。2年後、私は再び、この病院を訪れる機会がありました。私たち全員はホールに集ま

ニコニコBOX

〈11月9日〉

佐藤章夫会長／長谷川2800地区ロータリー財団委員長・パストガバナー様をお迎えして。山形イブニングロータリークラブ三澤会長ならびにIM実行委員長の後藤様を歓迎しまして。

遠藤栄次郎さん／長谷川憲治パストガバナー来会ありがとうございます。ロータリー財団についてのご講話ありがとうございます。

清野伸昭さん／長谷川パストガバナーをお迎えしてロータリー財団の講話を楽しみにしております。

東海林健登さん、市村清勝さん／長谷川憲治さんをお迎えして今年も楽しいお話が聞けることに感謝して、ニコニコです。

坂部登さん／ようこそ長谷川さん

日頃大変お世話になっております。大先輩をお迎えして。

遠藤靖彦さん／長谷川パストガバナーをお迎えして本日はようこそお越しいただきました。

東海林仁さん／長谷川さんをお迎えして

本日はお忙しい中、西ロータリーにおいでいただきありがとうございます。卓話を聞いて、さらにロータリー財団の理解を深めたいと思います。

鈴木浩司さん／長谷川憲治先輩をお迎えして。

武田元裕さん／長谷川パストガバナーようこそ！昨年度に引き続き大変ありがとうございます。楽しみにしていました。

新藤幸紀さん／本日の卓話の講師、長谷川憲治パストガバナーを歓迎して、ニコニコします。

五十嵐信さん／長谷川大先輩を歓迎して。

西谷真一さん／長谷川大先輩をお迎えして

昨日は、お住まいの三島町内会開催の防災訓練にお招きいただきありがとうございました。

昨日、一昨日に渡りまして、東京6大学対抗秋季リーグ戦が神宮で行われたわけですが、見事に連敗をいたしました。

(笑) 早稲田の小宮山監督、大変おめでとうございました。

クラブ報告

写楽クラブ

10月25日寒河江市慈恩寺に15名の参加で日帰り旅行に出かけました。小雨の中でしたが、三重塔、本堂、薬師堂などの仏像の拝観ができました。

また、昼は割烹東門にて季節の料理を楽しみました。



り、医師や看護師と話をしました。彼らは私たちが病院を建設してから、14万人の赤ちゃんが産まれたことを教えてくれました。その後、私は1人の子どもを定期検診に連れて来ていた若い母親を紹介されました。大きな黒い目と笑顔が可愛い1歳か2歳くらいのその子は、歩こう話そうと懸命です。子ども好きな私が、無意識にその子に近づくと、その子も私に近寄ってきました。私はその子を抱き上げ、母親とおしゃべりをしました。そこへ1人の医師が笑顔で近づいて尋ねました。「ミスター、ラビット・ラン?前にこの病院を訪れたときに、心配そうに見ていた保育器の赤ちゃんを覚えていますか?」「勿論です」と私は答えました。「どうして忘れられますか」その医師は、一瞬、間を置いた後、私が抱いていた女の子に笑顔で近寄り、その子を軽くたたきました。そして言ったのです。「この子がその赤ちゃんです」私は息が止まりそうになりました。この子があの赤ちゃんだったのです。私の腕の中にいる小さな女の子が、ロータリーのおかげで生きることのできた赤ちゃんだったのです。ロータリー財団のおかげで、この子は微笑み、笑い、両親に喜びをもたらしました。このことを考えると、他の全てのことが吹き飛んでしまいます。そこで、今日、皆さん全員にお願いしたいことがあります。自国に帰ってクラブに戻ったら、これはガバナーエレクトに対する言葉ですからね。次年度の計画を立てるときに、財団のことを1番に考えて欲しいのです。財団はロータリー全員の財産です。財団は人々の人生を変えるのです。

と、こういうスピーチだったのですが、良いスピーチだったと思います。

そして、最後、去年も申し上げたのでありますが、去年の1月に配られた抜粋の綴り、この最初に「表彰ということ」という話があります。簡単に申し上げますと、とっても貧しい、ほんとに極貧の女性が、8畳一間の木造のぼろアパートに住んでいながら、毎月5千円、年間6万円を経営難に陥っている施設に寄付を35年間、匿名で続けているんです。そして、匿名であったことが終に分かりまして、市で表彰したいと言ってきたときに、きっぱりと断った。そのときのセリフがそこに書いてある言葉なんです。昔、非常に困っているときに、ある方から、ピザか何かもらったんですね。「これ、子どもさんに」って言うんで。あるいは、困っているときに、ネクタイを買ってもらったりして助けてもらったことがあるんですが、そのときに、決心したんだと。私は決心したんだと。1つの手は自分と家族のために、そしてもう1つの手は、人様のために使おうと。私のしたことなんか、たいしたことない。表彰するなら、そのピザかなんかくれた人や、ネクタイを買ってくれた人にしてくださいと、こういうふうに応えたという話なんです。8畳一間の木造のぼろアパートに住んで、多分、爪に火を灯すようにして暮らしている人が、毎月、5千円。年間6万円。35年間、匿名で寄付をしているんです。私ども財団がお願いしている財団への寄付のお願い、たった150ドルです。それができないなんて、口が裂けても言えないと私は思います。是非、西クラブの皆さんは、300ドルぐらい、寄付をしていただきたい。そして、財団の活動にこれからも格別のご理解と、ご支援を賜りますように心からお願いを申し上げまして私の話を終わらせていただきます。ご清聴、誠にありがとうございました。

本日出席 (11 / 9)	会員総数	出席会員数
	98名	56名